

## 全学FD推進委員長挨拶

全学FD推進委員長 副学長、社会学部教授 松端 克文



FDは「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称」（中央教育審議会）とされています。個々の教員のレベルでは、授業の改善に向けて日々、さまざまな工夫がなされていると思いますが、FD活動はそれを大学として、あるいは学部として組織的に行うことで教育の質を高めていくことを目的としています。

実は、私はFD活動を推進する委員長という立場になるまでそうしたことをあまり意識しておらず、学期末ごとに実施している授業評価アンケート結果を受けた教員所見についても、これまで十分な取り組みができていない状態でした。

FDの観点からいえば、アンケート結果を教員個人にフィードバックするだけに終わらず、これを大学として共有して課題を確認し、その解決に向けて組織的な活動を展開することが重要です。確かにそれぞれの授業は個々の教員が担当しているのですが、その授業は大学・学部として提供しているのので、「私の勝手」ではすまされない、そんなことを今更ながら考えています。

今年度の全学FD推進委員会では、研修会に力をいれました。昨年度からの継続となる研修会として5月に、社会学部を事例としてディプロマ・ポリシーに照らしたカリキュラムマップづくりの研修会を実施し、80名を超える参加者がありました。11月には第2回として、教育・学生生活上配慮の必要な学生についての支援のあり方についての研修会を実施し、他大学の参加者からも大変好評をいただきました。

今年度は過去のFD活動と比べて、研修会の成果を、着実に具体的な改革・改善に結びつけていることが特徴的と言えます。前者については、カリキュラム改革の一環として、2016年度から「カリキュラムマップ」をふまえた「ナンバリング」を導入する予定です。これにより学生目線での「カリキュラムの可視化」が実現することになります。

また、後者については2015年度より新たに「キャンパス・ソーシャルワーカー」を配置し、学生本人のみならず教職員からの相談にも応えるかたちで学生の学習・学修も含めたキャンパス生活を支援する仕組みを作っていくことになりました。

この他にも、今年度は初めて学習支援センターとの共催による研修や勉強会を開催するなど、新たな形での教授スキルアップの支援を始めています。

FD活動は、教育の質を高めるための組織的な活動ですが、それを内向きの活動に留めず、様々な取り組みを公表・公開していくことで、他大学とも情報を共有しながら切磋琢磨し、教育の質を高めていくことが、私たち教職員に課せられた使命であると思います。

いい教育を実践し、いい大学を目指すことは、私たちが共有できる目標です。是非とも力を合わせて、自他ともに誇れるいい大学にしていきたいと思えます。

## 目次

全学FD推進委員長挨拶	1
2014年度授業改善のための「学生による授業評価」アンケート	2
SA・TA制度活用状況	3
特集 SAとして下級生へ伝えたい私たちの「熱い思い」!	4
2014年度活動報告 ・全学FD研修会 ・インストラクションスキルアップ研修 ・「英語による授業」のための勉強会(第1回)	6
外部研修会参加報告	8
2014年度全学FD推進委員会構成メンバー紹介	8

## 2014年度 授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告

「学生による授業評価」の目的は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、学生と教員が協力して「わかりやすく質の高い授業」を作りあげ、教育改革（カリキュラム改革）等を進めていくことにあり、アンケートに期待されることは以下の二つです。

- ① 個々の教員が主体的に「わかりやすく質の高い授業」を形成しようとする活動に資すること。
- ② 学生に授業を真摯に評価する権利を与えると同時に、自らの受講態度を自己評価する義務を課し、積極的に授業に出席し学ぼうとする意識と姿勢を喚起すること。

これらが相互に関連しあって一層の授業改善が進められるものと考えており、多様な学生の意見に耳を傾け、学生とともに「わかりやすく質の高い授業」を作りあげていくことが教員に求められています。

### ◆春学期 実施状況

実施期間：2014年6月30日（月）～7月12日（土）  
 実施率：実施対象科目 712科目中 688科目実施 実施率96.6%  
 回答率：50.8%（回答者数／対象クラス履修者数）  
 所見提出率：47.1%

### ◆秋学期 実施状況

実施期間：2014年12月8日（月）～12月20日（土）  
 実施率：実施対象科目 819科目中 776科目実施 実施率94.7%  
 回答率：45.2%（回答者数／対象クラス履修者数）  
 所見提出率：50.2%

科目毎の授業評価をクロス集計した結果のほか、自由記述については全体的に項目毎に分類集計したものを、本学ホームページで公開しています。（学内からのアクセスのみ可能）

また、2013年度より、担当教員が学生の学習実態を把握し、授業の問題点を抽出して授業にフィードバックできるような授業評価アンケートとするため改訂を行いました。こうした工夫により、学生の学習活動に対する自覚と向上を促し、担当教員においては学生の授業への取り組みの結果を受けて、より良い授業とするための検討材料を提供することを目指しています。なお、2015年度より、現在4種類（共通科目、外国語科目、資格課程科目、健康・スポーツ学演習）に分けて実施しているアンケート様式について、健康・スポーツ学演習以外の科目（共通科目、外国語科目、資格課程科目）を1種類に統一することになりました。

#### アンケート項目の構成 ※「健康・スポーツ学演習」を除く

- I. 授業への学生の取り組み（5項目）①出席率、②履修の理由、③自主的な学習時間、④授業の理解度他
- II. 授業の内容と授業の進め方についての評価項目（11項目）①動機づけ（2項目）、②教員の熱意・配慮（3項目）、③講義内容、授業目標（1項目）、④成績評価基準（1項目）、⑤授業スキル（3項目）、⑥授業環境への配慮（1項目）
- III. 総合評価（1項目）
- IV. オプション項目

#### ●「学生による授業評価アンケート」実施方法の見直し

Web化を含めた実施方法について、引き続き検討を行う予定です。

#### ●アンケート結果を授業改善に繋げる取り組み

組織的な取り組みとなるように、教員個人だけでなく各学部等にアンケート結果をフィードバックしました。また、アンケート結果に対する教員からの所見提出を促すことにより、学生とともに「わかりやすく質の高い授業」を作り上げていくための工夫が求められます。

## SA（スチューデント・アシスタント）・TA（ティーチング・アシスタント）制度活用状況

本学では、2009年度からのSAトライアルを経て2012年度よりSA制度を導入し、また、2012年度からのTAトライアルを経て、2013年度よりTA制度を導入しました。

全学FD推進委員会ではSA・TA制度に関するガイドラインを定めて運用を行っており、学期初めの「SA・TA研修オリエンテーション」を実施、SA・TA学生や受講生、担当教員へのアンケート結果と担当教員からの「成果報告書」の検証などを基に、制度改善に努めています。

### ◆SA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにSA（スチューデント・アシスタント）制度を導入する。これは、学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図ることを目的とする。

#### ●2014年度 SA制度実施授業●

学 部	授 業 名	開講時期	授業担当者（責任者）
経済学部	経済学特講－モチベーションアップ講座	秋学期	辻 洋一郎
	演習Ⅲ	通 期	
	入門演習	春学期	吉田 恵子
	コース演習	通 期	
	労働経済論Ⅰ	春学期	
	労働経済論Ⅱ	秋学期	
	共通自由特別講義－IT活用の実際	春学期	藤間 真
	図書館・博物館への誘い	春学期	
社会学部	社会福祉フィールドワーク（合同）	通 期	竹内 靖子
経営学部	経営学特講－本学出身税理士による会社経理入門	春学期	小澤 義昭
法学部	基礎演習（合同）	通 期	大久保正人、的場かおり

### ◆TA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入する。これは、本学大学院学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図るとともに、本学大学院学生の教育研究職に就いた際に必要となる教育力の獲得に寄与することを目的とする。

#### ●2014年度 TA制度実施授業●

学部・研究科	授 業 名	開講時期	授業担当者（責任者）
経済学部	演習Ⅳ	通 期	吉田 恵子
	経済学特講－労働経済の諸問題	春学期	
	基礎演習	秋学期	
	西洋経済史Ⅰ	春学期	伊藤カンナ
	西洋経済史Ⅱ	秋学期	
	歴史学～ヨーロッパ統合史	秋学期	
	地域経済論Ⅰ	春学期	角谷 嘉則
経営学研究科	演習（アカデミック・コース）	通 期	片岡 信之
	演習（アカデミック・コース）	通 期	正亀 芳造

## 特集 SAとして下級生へ伝えたい、私たちの「熱い思い」！

法学部「基礎演習」の模擬裁判で活躍する5名のSA学生にお話を伺いました。

### 出席者



後列左から  
大久保准教授、鈴木さん、瓜生さん、  
脇本さん、的場准教授  
前列左から  
家治さん、山口さん

うりゆう	ももか	
瓜生	桃香さん	(法学部3年次生)
すずき	さやかさん	(法学部3年次生)
やじ	せいご	
家治	清悟さん	(法学部3年次生)
やまぐち	たつや	
山口	達也さん	(法学部3年次生)
わきもと	ありさ	
脇本	有里沙さん	(法学部3年次生)
大久保	正人	准教授 「基礎演習」「刑事訴訟法」担当

### 司会・インタビュアー

的場 かおり 准教授 「基礎演習」担当、  
全学FD推進委員会 委員

## 教えるってむずかしい！



山口 達也 さん



鈴木 さやか さん



**司会**：活動内容(役割)と1年次生に教えるうえで心掛けたことを教えてください。

**山口**：MC(司会)を担当しました。難しい法律用語を使わないとか、劇の途中で1年次生に質問をするとか、場を盛り上げる工夫をしました。

**鈴木**：私は裁判内容を解説する役を担当しました。常に前に立つので「明るく、元気に、はきははと」を心掛けています。まだ法律に慣れていない1年次生に、複雑な裁判手続や用語をどうすれば理解してもらえるのかを一番に考えました。山口くんと同じで、用語を言い換えたり、解説したりと試行錯誤を繰り返しました。

**大久保先生**：鈴木さんはキャプテン、山口くんは副キャプテンとして、頑張ってくれています。

**家治**：私は、突然「裁判員裁判、反対!」、「死刑制度、反対!」とか叫ぶ傍聴人役でした。

**大久保先生**：この役は彼にしかできない。

**家治**：教え方にはいろいろあると思います。私の場合は、反対意見をあえてぶつけることで、1年次生に裁判員裁判とか死刑制度について考えてもらいました。流れに逆らうこの役には勢いとパワー、強靱な精神力が要りますね。

**脇本**：200名以上の学生と先生たちの前で披露するのは本当に緊張しました！人前に立つのが苦手でしたが、成長できたと思います。裁判長として裁判員をまとめる大変さを痛感したり、ピンチヒッターで解説者を務めたり、さまざまな経験ができました。

**瓜生**：演じることもそうですが、模擬裁判はSAの活動を知ってもらう機会なので、1年次生に関心をもってもらえるように頑張りました。私たちの仲間になりたいって思ってもらえると嬉しいです。

**司会**：法学初心者の1年次生が、わかりやすく楽しく刑事裁判手続を学べるように、さまざまな工夫をされているのがよくわかりました。授業のあと、「解説者がいたのでわかりやすかった」、「裁判員裁判の問題点について考えるようになった」、「私も来年挑戦してみたい」などのコメントが寄せられました。みなさんの思いが届いています。



## 試験も就職活動も！SAの経験を活かしています。

**司会**：SAとしての経験はどんなところで活かされていますか。

**大久保**：脇本さん、鈴木さんは将来の夢に近づきましたよね。

**脇本**：実は、声優志望です。以前は「失敗するのが嫌」だったのですが、「失敗しても大丈夫！」と前向きになりました。最近はオーディションにどんどん応募しています。

**鈴木**：解説担当がきっかけになって、この秋、人前で話す添乗員さんの資格、国内旅程管理主任者の資格を取りました！この業界での就職を考えているので、経験が自信に変わって形になりました。

**家治**：「場の空気を察する力」と、それとまったく逆の「場に入り込む力」、度胸ですね。この度胸は、就職活動の面接などアウェーな状況に入り込むときにも活かれます！

**山口**：私も面接で相手の印象に残る自信がさらに深まりました。有名人と同姓同名、そして独特の声、それにプラスして中身も磨けたからです。

**瓜生**：私は多面的に物事を考えられるようになりました。もともと営業職に苦手意識をもっていたのですが、今では営業職のインターンに参加するようになりました。

**大久保**：みんな先日の学期末試験でも頑張っていましたよ。

**司会**：SA活動を通してみなさんは刑事訴訟に関する知識が深まっていますね。脚本作成から模擬裁判の実演まで、大久保先生から直接指導を受けられるのもSAの魅力の一つですよ。

**鈴木・山口**：先生と接する機会が多くなりました。練習の後で、脚本を改訂したり台詞にアドリブを入れたり、よりよい内容になるよう一緒に考えてくださいます。

**瓜生**：SAになって先生との距離が縮まりました。いろいろと質問したり、アドバイスをもらっています。

**司会**：SAの活動は着実にみなさんの自信、成長につながっていますね。



脇本 有里沙 さん



家治 清悟 さん

## 充実した4年間のために…後輩へ熱いメッセージ！

**司会**：では最後に、SAに関心のある学生にメッセージをお願いします。

**瓜生**：限りある学生生活です。どんどん挑戦してください！

**脇本**：人に教えるという仕事はどこにでもあります。だからこそSAの経験はさまざまな場面で活かれますよ。

**山口**：4年間継続して打ち込めるものを見つけてください、SAもその一つです！人間関係も広がります。

**家治**：他人とは違うことをやってみる！そうすれば個性がより磨かれます。

**鈴木**：私は欲張りに・・・SAも勉強もクラブ・サークルも全部充実させ、自分を活かしきる4年間にしてください。

**大久保**：来年度は4年次生ですが、進路を決めて一日も早くSAとして活躍してもらいたいです。春には新しいSAを募集しますので、関心のある方はぜひ応募してください。



瓜生 桃香さん

## インタビューを終えて

の場 かおり 准教授

みなさんの目がいきいきとしていたことが最も印象に残りました。また、インタビューを通して、自分の見解を明確に表現する力と自信を感じました。そして、先生も含めてお互いの中にしっかりと信頼関係が築かれていました。法学部のSA活動は「チームとして一つのことを作り上げる力」を磨く絶好のステージになっています。



模擬裁判教室で記念撮影。  
2時間近くのロングインタビューにお付き合いありがとうございました。

紙面スペースの都合で、掲載できなかった話題を本学ホームページの「桃山学院大学のFDの取り組み」に掲載しています。

<http://www.andrew.ac.jp/info/fd/index.html>

## 2014年度 活動報告

### ◆全学FD研修会

【第1回】2014年5月28日（水）15：00～16：30

テーマ：「3つのポリシーに基づく内部質保証システムの構築」

講師：沖 裕貴（立命館大学教育開発推進機構教育開発支援センター長・教授）

研修会では講演の後、実際にカリキュラム・マップの作業を行った社会学部からプレゼンテーションがあり、これに対して講師からコメントをいただきました。

質疑応答の中では、各学部で進めて行くカリキュラム・マップの作業に関連した質問を中心に講師とのやり取りがあり、教育の質保証に向けた取り組みに対する理解が深まったものと思います。この他にも、今回の研修会で紹介された「ルーブリック」についてもっと知りたいとの声もあるなど、今後FD活動を進めていくうえでの多くの課題を確認することができました。

【第2回】2014年11月26日（水）15：00～16：30

テーマ：「配慮の必要な学生への大学としての対応のあり方について」

講師：松久 眞実（プール学院大学 教育学部教育学科准教授）

郭 麗月（桃山学院大学 社会学部社会福祉学科教授）

コーディネーター：安原 佳子（桃山学院大学 社会学部社会福祉学科教授）

◇ミニレクチャー

①「発達障がいについての基礎理解」（郭 麗月教授）

②「配慮を必要とする学生へのプール学院大学での取り組み」（松久 眞実准教授）

◇ディスカッション（コーディネート：安原 佳子教授）

松久  
眞実  
准教授



ミニレクチャーでは、発達障害者支援法の定義、厚生労働省による分類に基づく発達障がいの種類—広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群)、学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、および、それぞれの障がいの特性について

説明があり、それぞれの障がいの特性に応じた対応が必要なことが分かりました。

身体障がいに比べ、はっきりと分かりにくい発達障がいの学生をどのように支援していくのか、多くの大学で課題を抱えていることが浮き彫りになりました。担当者一人で課題を抱え込むのではなく、多くの関係者を巻き込んでチームで対応する「ケース会議」の事例紹介の他、授業を工夫することによって学習でつまづく学生を支援するという「授業のユニバーサルデザイン」の考え方など、いずれも示唆に富んだ内容でした。

ディスカッションを通して、配慮を必要とする学生への対応のあり方、課題についてより理解を深めることができたのではないのでしょうか。



郭 麗月 教授



安原 佳子 教授

2014年度より初めて、学習支援センターとの共催による研修を開催しました。

## ◆インストラクションスキルアップ研修

学習支援センターと全学FD推進委員会共催により、学習支援センターで蓄積している学習支援のノウハウを基に構成した研修プログラム「インストラクションスキルアップ研修―初年次教育シリーズ①」を、以下のとおり開催しました。

- [第1回]「レポート作成」 5月7日（水）13：20～14：20  
 [第2回]「ノートの取り方」 5月14日（水）13：20～14：20  
 [第3回]「プレゼン資料の作り方」 5月21日（水）13：20～14：20

研修は、実際に学習支援センターで実施している学生向けの実践的なワークショップを経験する形で進められました。日頃学生からの相談を受けている学習支援センターのスタッフと参加教員との間で活発な意見交換が行われ、学習効果を上げるための手法を具体的に学びあう良い機会となりました。

参加者からは、「学習支援センターの取り組みを教員が体験する手法は有効。学生への直接支援以上に、教員への教授方法支援は有効だと思う。」といった意見や、より多くの教員の参加を促すよう積極的な広報を求める声もありました。学習支援センターでは、学生からの学習上の悩み、教員から指導方法の悩みなどを聞きながら提供プログラムの改善に努めており、今後も全学FD推進委員会と連携しながら、指導力のスキルアップ支援に努めて参ります。



## ◆「英語による授業」のための勉強会

学習支援センターの協力により、「英語で授業をやっているが、もっとスキルを高めたい」「英語での授業にチャレンジしてみたい」「英語で行う授業とはどうあるべきか？」について、参加者と共に考える勉強会を開催しました。

第1回：Lecturing in English 7月30日（水）17：10～18：30

現在、英語による授業を行っている教員から各々現状報告をしていただいた中で抽出された問題点（課題）について意見交換を行いました。

受講者個々人の英語レベルの差の問題については、一定の英語レベルでクラスを分けてはどうかといった意見が出た一方で、英語レベルを問わず、多様な学生が入ることによる効果についても意見がありました。英語レベルの差を埋めるため、事前にテキストの予習を求めたり、講義中心ではなくグループ学習を取り入れる、レジュメやパワーポイントを利用して理解の促進を図る工夫を行っている事例や個人面談を行って対応していることなどが紹介されました。

「英語による授業」の位置づけが分からないといった問題については、カリキュラムの問題、教育の質保証の問題とも相まって、組織的な検討が必要な課題といえるでしょう。

☆ ミッションステートメント ☆

『桃山学院大学は、自由と愛の精神に基づく学びの場として、ここに集うすべての人の多様な価値観を認め合いながら、向上心を絶やさず、みずから考え、積極的に行動する世界の市民を育むことを使命とする』

## 外部研修会参加報告

2014年度は下記の研修会に参加しました。

日程	研修名	主催	開催場所
5/17(土)	関西地区FD連絡協議会 第7回総会	関西地区FD連絡協議会	京都大学
7/12(土)	大学シンポジウム2014「学生が成長する教学改革—学びに向かう動機づけの工夫と効果—」	ベネッセ	大阪経済大学
7/17(木)	アクティブラーニングスタイルEducationミニセミナー ～教育ITソリューションEXPO(EDIX) フォローアップセミナー～	日本事務器株式会社 他	(株)くろがね工作所 大阪ショールーム
8/8(金)	平成26年度ICT利用による教育改善研究発表会	私立大学情報教育協会	東京理科大学
8/20(水)～ 22(金)	日本リメディアル教育学会 第10回全国大会	日本リメディアル教育学会	日本電機大学 千住キャンパス
10/24(金)	阪南大学「スチューデントコモンズ」オープニング セレモニー	阪南大学	阪南大学 スチューデントコモンズ
11/15(土)	教育学習支援センター国際シンポジウム「大学カリキュラム改革の 最前線—新しい時代に求められる能力と教養教育—」	大阪大学 教育学習支援センター	大阪大学 豊中キャンパス
11/25(火)	「学生が自ら学ぶ授業を設計してみませんか?～シラバスの工夫で、 授業はもっと良くなる～」	佛教大学	佛教大学 紫野キャンパス
2015年 2/24(火)	APシンポジウム「反転学習はディープ・アクティブラーニングを 促すか?」	関西大学 教育開発支援センター	関西大学 千里山キャンパス
2/28(土)、 3/1(日)	第20回FDフォーラム	大学コンソーシアム京都	同志社大学 今出川キャンパス
3/20(金)	MOST講習会	関西地区FD連絡協議会	京都大学

## 2014年度 全学FD推進委員会構成メンバー紹介

〔委員長〕 松端 克文 (副学長、社会学部)

〔委員〕 竹原 憲雄 (経済学部)、清水 由文 (社会学部)、野田 俊範 (経営学部)、  
串田 久治 (国際教養学部)、的場かおり (法学部)、松澤 俊二 (共通教育協議会選出、社会学部)、  
竹島 亮輔 (教務課 課長)、叶屋 真一 (教育支援課 課長)

〔事務局〕 延 康之 (学長室 課長 ～2014.10.31)、中辻 努 (学長室 課長 2014.11.1～)、  
宮谷 真由美 (学長室)、北川 達也 (学長室 ～2014.10.31)、斎藤 桂子 (学長室 2014.11.1～)

発行日 2015年3月20日

発行 桃山学院大学 全学FD推進委員会 事務局

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1

電話: 0725(54)3131

FAX: 0725(54)3203

電子メール: zfd-momo@andrew.ac.jp